

⑧ 五百漕 (郡山市)



環 境

五百漕は、郡山市の中心部、いわき・新潟を結ぶ国道49号線沿いにあり、郡山市の自然公園『野鳥の森』である。五百漕は、一部にアシ原をもつ池の名称であるが、その南にはササの下草があるアカマツを中心とした雑木林の丘陵地が続いている。池は鯉の養殖に利用されているが、池の約1/4を占めるアシ原は人手が全く入らない自然の状態になっている。水辺の鳥と林の鳥が観察できるので、いつ訪れても多くの野鳥に出会うことができる。

季 節

探鳥ルートは、池を一周するコースと池の西畔から南畔へ回り東端から南の林へ入るコースがある。水面の鳥とアシ原の鳥をじっくり見るには一周コースがよい。夏であればアシ原にはオオヨシキリ、コヨシキリ、ヨシゴイの営巣が見られ、水面には雛を連れたカルガモ、パン、カイツブリの姿が見られる。8月中旬から9月初旬にかけて、アシ原はツバメのねぐらとなり、その数は数万羽となって、渡去するまで続く。冬には、1年中いるカルガモに加えてマガモ、コガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、ゴイサギ、コサギが見られ、時にはハシビロガモ、アオサギ、ダイサギがやってくる。

林の鳥を観察するには、南側遊歩道の東端から南の松林に入りしばらく進むと右に曲がり水路にぶつかるので、右側に降りて水路を渡り林に上がる。そ

の後は、荒れた小道になり、分かれ道もあるが、できるだけ西に進んで、右に折れて歩くと自然に斜面を下って池に出る。この林では、春の渡りには、キビタキ、オオルリ、センダイムシクイ、メボソムシクイ、コサメビタキ、クロツグミ、ツツドリなどが見られ、予期しない鳥も出て楽しみである。松林ではササゴイ、カラスが巣をつくり、この2年ほどツミの営巣が確認されている。

林内にかげられた巣箱はシジウカラがよく利用し、そ

の他モズ、カッコウ、ヒヨドリ、キジバト、キジ、ハクセキレイなど、繁殖している鳥種は多い。冬期はツグミ、ジョウビタキ、カシラダカなどが見られる。

ここ五百漕では水辺の鳥と山野の鳥が楽しめるので、池畔を半周して林に入ることをおすすめする。しかし、履物は山歩きに適するものにした

交 通

JR郡山駅より福島交通バス内環状循環山根、または虎丸回りで、「郡商前」下車、徒歩10分。車利用の場合は特に駐車場がないので、椿山荘入口から入り池の西畔の桜の根元に駐車することになる。

